

令和6年度
1 学年総合的な探究の時間（白老駅前プロジェクト）

反省改善調査 報告書

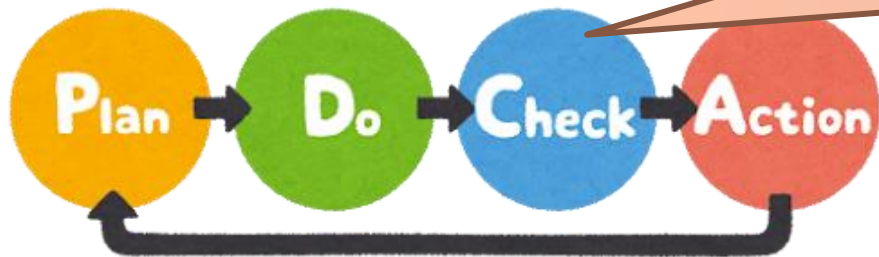
北海道白老東高等学校 1 学年団・地学協働推進委員会

0, 目次

- 1, 調査の概要について
- 2, 授業の概要と評価時期について
- 3, 調査項目について
- 4, 調査の結果について
- 5, 調査結果のまとめ
- 6, 今年度の課題とゴール(目標)の達成状況について
- 7, 地域コーディネーターより助言
- 8, 次年度に向けた提言について
- 9, 白老駅前プロジェクト全体のまとめ
- 10, 参考資料

1, 調査の概要について

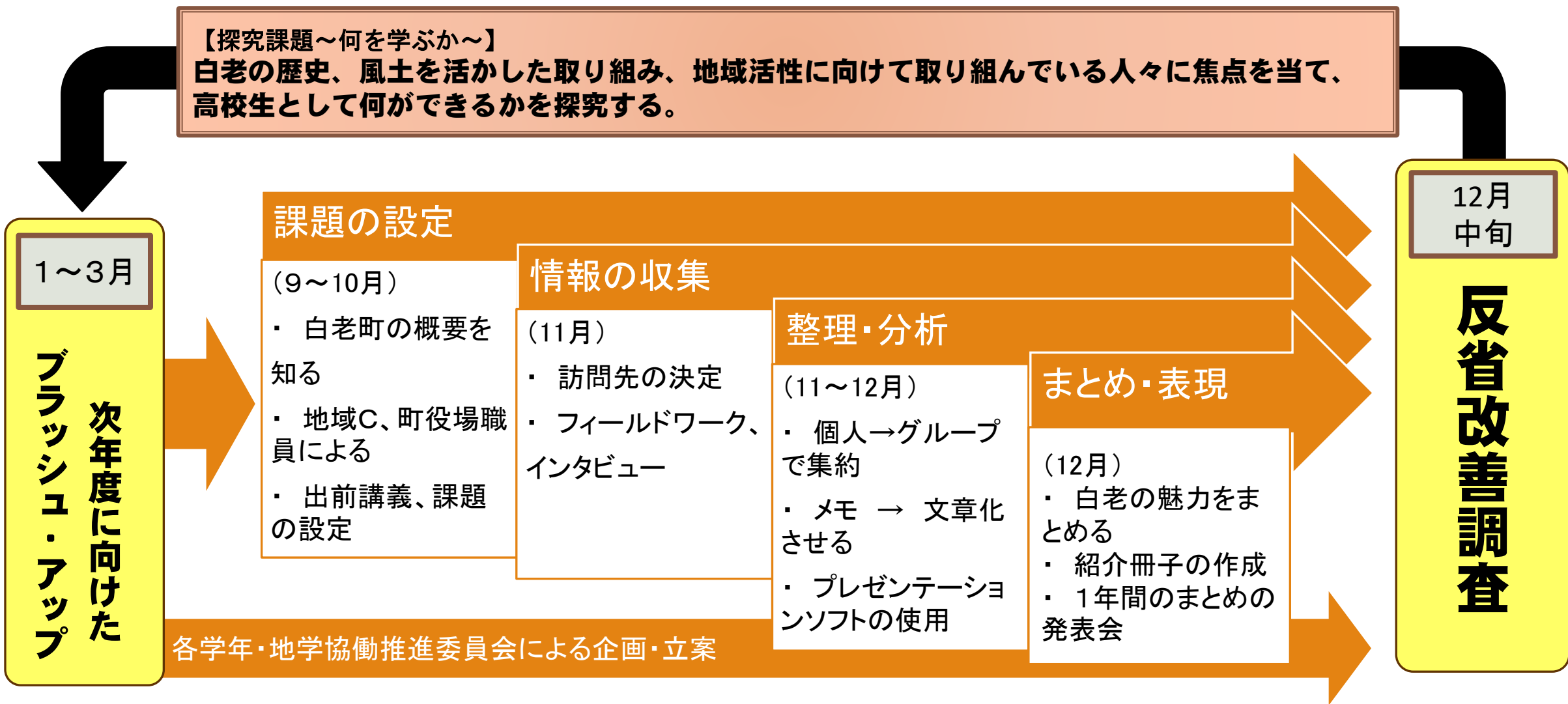
- 令和6年度より実施した、1学年総合的な探究の時間(白老駅前プロジェクト)について、内部調査(教職員並びに1学年生徒)の概要をまとめ、内外に公表し、成果・反省・改善点を明らかにすることで、来年度以降のブラッシュアップへの一助とする。
- 本結果を本校ホームページにおいて公開し、本校の地学協働体制について、町内は元より、道民に広く周知することで、様々な分野との更なる協働体制の構築を目指す。



【Check: 評価】

- ・計画通りに実施できたか、計画は妥当だったか
 - ・どのような成果があったか
- 数値化し、検証する。(GoogleFormによる調査 教職員、1年生徒)

2, 授業の概要と評価時期について



3, 調査項目について(選択式項目)

番号	質問項目	ア	イ	ウ	エ	オ
		教職員	1A (佐々木級)	1B (柚原級)	生徒小計 (イ+ウ)	合計 (ア+エ)
1	白老駅前プロジェクトにおいて、本校のグラデュエーションポリシーのうち、最も育成できたと思われる項目を1つ選んでください。 ①自己肯定力 ②発信力 ③自己教育力 ④課題発見力 ⑤共生力 ⑥該当なし					
2	白老駅前プロジェクトにおいて、もう少し育てたかった力を1つ選んでください。 ①自己肯定力 ②発信力 ③自己教育力 ④課題発見力 ⑤共生力 ⑥該当なし					
3	フィールドワークの取り組みについて、回答願います。 (5段階評価 5…よくできた 1…全くできなかった)					
4	紹介冊子の取り組みについて、回答願います。 (5段階評価 5…よくできた 1…全くできなかった)					
5	ゼミ活動(少人数指導)の取り組みについて、回答願います。 (5段階評価 5…よくできた 1…全くできなかった)					
6	(絶対評価)今年度の1年生の取り組みについて、回答願います。 (5段階評価 5…よくできた 1…全くできなかった)					
7	(相対評価)昨年度までの探究的な学びや地域学等、また例年の1年生と比較して、回答願います。 (5段階評価 5…よくできた 1…全くできなかった)					
8	1年生の発表会について、回答願います。 (5段階評価 5…よくできた 1…全くできなかった)					
9	今年度の目標「白老東部商店街の良さを知り、体験した上でさらなる活性化に向けた課題を把握する」について、回答願います。 (5段階評価 5…よくできた 1…全くできなかった)					
10	今年度の白老駅前プロジェクトは、探究的な学びの過程(課題設定→情報収集→整理分析→まとめ表現)を踏襲できていましたか？ (5段階評価 5…よくできた 1…全くできなかった)					
11	(絶対評価)今年度の白老駅前プロジェクトは、地学協働(地域との連携)を意識できていましたか？ (5段階評価 5…よくできた 1…全くできなかった)					
12	(相対評価)今年度の白老駅前プロジェクトは、例年と比較し、地学協働(地域との連携)を意識できていましたか？ (5段階評価 5…よくできた 1…全くできなかった)					
13	今年度の白老駅前プロジェクトの総括評価をお願いします。(5段階でお願いします)					

3, 調査項目について(記述式項目)

教職員向け記述式質問

14, 各種回答における自由記述欄

15, ゼミ担当者へ ゼミ活動における良かった点と課題・改善点を記入願います。

16, 全教職員 今年度の白老駅前プロジェクトにおける良かった点と課題・改善点を記入願います。

(授業、フィールドワーク、紹介冊子、発表会、授業進行、企画立案、教員の協働体制、地域との連携等どのようなことでも構いません。)

17, 来年度以降取り組んでみたいことや、先生方のご経験で「こんな探究活動」「こんなアイデア」があるよ！という案があれば是非ご教授願います。

生徒向け記述式質問

9, ゼミ活動の良かった点を自由に書いてください。

10, ゼミ活動の課題点・改善点を自由に書いてください。

11, 白老駅前プロジェクト全体を通して、良かった点を自由に書いてください。

12, 白老駅前プロジェクト全体を通して、課題点や改善点を自由に書いてください。

13, 来年度以降取り組んでみたいことや、中学校の時、こんなことをして楽しかった！などがあれば自由に書いてください。

4, 調査の結果について(抜粋)

番号	質問項目	ア	イ	ウ	エ	オ
		教職員 平均値 n=11	1 A (佐々木級) n=26	1 B (柚原級) n=23	生徒平均値 (イ + ウ)	合計 (ア + エ)
1	白老駅前プロジェクトにおいて、本校のグラデュエーションポリシーのうち、最も育成できたと思われる項目を1つ選んでください。 ①自己肯定力 ②発信力 ③自己教育力 ④課題発見力 ⑤共生力 ⑥該当なし	④ (最頻値)	④ (最頻値)	④ (最頻値)		
2	白老駅前プロジェクトにおいて、もう少し育てたかった力を1つ選んでください。 ①自己肯定力 ②発信力 ③自己教育力 ④課題発見力 ⑤共生力 ⑥該当なし	③ (最頻値)	① (最頻値)	② (最頻値)		
3	フィールドワークの取り組みについて、回答願います。 (5段階評価 5…よくできた 1…全くできなかった)	4.3	4	4.74	4.37	4.34
4	紹介冊子の取り組みについて、回答願います。 (5段階評価 5…よくできた 1…全くできなかった)	4.55	3.88	4.65	4.27	4.41
5	ゼミ活動(少人数指導)の取り組みについて、回答願います。 (5段階評価 5…よくできた 1…全くできなかった)	4	4.23	4.65	4.44	4.22
6	(絶対評価)今年度の1年生の取り組みについて、回答願います。 (5段階評価 5…よくできた 1…全くできなかった)	4.64				4.64
7	(相対評価)昨年度までの探究的な学びや地域学等、また例年の1年生と比較して、回答願います。 (5段階評価 5…よくできた 1…全くできなかった)	4.6				4.6
8	1年生の発表会について、回答願います。 (5段階評価 5…よくできた 1…全くできなかった)	4.78				4.78
9	今年度の目標「白老東部商店街の良さを知り、体験した上でさらなる活性化に向けた課題を把握する」について、回答願います。 (5段階評価 5…よくできた 1…全くできなかった)	4.36	3.96	4.43	4.20	4.28
10	今年度の白老駅前プロジェクトは、探究的な学びの過程(課題設定→情報収集→整理分析→まとめ表現)を踏襲できていましたか？ (5段階評価 5…よくできた 1…全くできなかった)	4.18				4.18
11	(絶対評価)今年度の白老駅前プロジェクトは、地学協働(地域との連携)を意識できていましたか？ (5段階評価 5…よくできた 1…全くできなかった)	4.45	4	4.39	4.20	4.32
12	(相対評価)今年度の白老駅前プロジェクトは、例年と比較し、地学協働(地域との連携)を意識できていましたか？ (5段階評価 5…よくできた 1…全くできなかった)	4				4
13	今年度の白老駅前プロジェクトの総括評価をお願いします。(5段階でお願いします)	4.45	3.96	4.52	4.24	4.35

4, 調査の結果について(抜粋)

【北海道白老東高等学校 グラデュエーションポリシー】

自己肯定力 発信力 自己教育力 課題発見力 共生力

Q. 白老駅前プロジェクトにおいて、本校のグラデュエーションポリシーのうち、最も育成できたと思われる項目を1つ選んでください。

【教員】(最頻値)・・・**課題発見力**

【生徒】(最頻値)・・・**課題発見力**

Q. 白老駅前プロジェクトにおいて、本校のグラデュエーションポリシーのうち、もう少し育てたかった力を1つ選んでください。

【教員】(最頻値)・・・**自己教育力**

【生徒】(最頻値)

A組・・・**自己肯定力**

B組・・・**発信力**

4, 調査の結果について(抜粋)

(生徒)ゼミ活動の良かった点

- 少人数だからやりやすかった。
- みんなの意見を沢山言い合えて考えが深まったこと。
- 自分的に教室とかの圧迫感がなくてやりやすかった。先生との交流もあって普段授業で話せないこととか話したり楽しかった、冊子づくりや訪問先のアポ、スライドなどで色々アドバイスをくれて割とやりやすかったと思う。
- いろいろな班の意見も考えながら、共有もできた。
- 先生が二人いたから相談するときも気軽に話しかけやすかったし質問がしやすかったので良かった。
- 教室に入ってる人数が少ないからグループで話すときも良かったし、ゼミのメンバーとの絆が深まった気がする。
- 皆んなで協力し白老の活性化を考えれたこと。
- 授業じゃないと行く機会のないようなところを今回のゼミを通して行って知ることができて良かった。

共通項

(教員)ゼミ活動の良かった点

- ゼミ担当の個性が良い意味で反映され、生徒たちも楽しそうだった。
- 自分の担当以外の教室を回ってお互いアドバイスし合った点は良かった。
- 少人数制の利点が出た、これまでと違ったやり方で斬新だった。
- フィールドワークに向けて、グループで準備している時間がとても充実しているように感じた。
- 生徒たちが自主的に活動していた。
- それぞれが担当していることにしっかりと責任を持って取り組んでいた。1グループあたりの人数もちょうど良かった。

4, 調査の結果について(抜粋)

(生徒)ゼミ活動の課題・改善点

- 他のグループとの情報交換を授業中にできるようにしたい。
- 発表会用のスライドの作る時間をもう少しあったらいいかなと思ったのと情報とかでデザインの勉強などをしたら満足いくスライドを作れると思う。
- パソコンの使い方になれないとスライド作ったりするのは難しかった。
- 他の班の所に自由に行き来して意見を聞きたい。
- もう少し時間があったら良かった。
- グループ決め無しで掃除の班だったのでそこは不満でした。
- 誰かに仕事量が偏っているのを見たり感じた。
- 場所によって距離が長いから自転車使えと良いと思う。

共通項

(教員)ゼミ活動の課題・改善点

- 教員の専門性をもう少し反映させても良かったかもしれない。
- 若手とベテランは分けた方が良かった可能性も。発表の仕方に大きく影響が出ていた。(良くも悪くも) これではあっちのゼミの方が良かったな等の不満からモチベーションの低下に繋がりがねない。
- スライド作りが苦手な生徒への支援が少し足りなかったと反省。
- 班員が相談している場面はあまりなかった。
- メンバー間で、意見を言いやすい人と言いつらい人がいるのかな、と感じた。
- 白老の魅力の一つである「人」にどのように関わり合いを持たせられるか。

来年度以降の重点項目

4, 調査の結果について(抜粋)

(生徒)白老駅前プロジェクト全体を通した良かった点

- 白老を体験じゃなくても地域を体験、知らないことを探究、調べることは単純に楽しかった。学校で6時間あっても5, 6時間目総合があるだけで気持ちが楽で単純に学校が行きやすくなる。
- 外と一緒に歩くと仲が深まっていいと思う。
- 色々な話を聞く機会が多く、町長の話などは参考になったし、ぜひ来年もあるといいなと思います。
- 白老町や町民の優しさなどに改めてふれて、**白老の課題も見つけられたし魅力も見つけることができた。**
- **地域の人と交流できて、町長に直接解決策などを伝えることができた。**
- 授業を通して町長との関わりができたし、苫小牧のひとは初めて行った場所もあって白老のことをよく知るきっかけができた。

(教員)白老駅前プロジェクト全体を通した良かった点

- 探究の流れを意識して進められたこと。
- **教員の協働体制、授業、地域との連携、紹介冊子、発表会、フィールドワーク、**
- **佐藤さん(地域コーディネーター)とうまく連携できていた点。**
- **全教員が関われるシステム**があって良かった。継続していきたい。 来年度以降の継続を目指す
- 1年生としてはやるだけのことをやったと思う。生徒の意外な一面を見れた。
- グループ内で担当を分けて、みんなが参加できたのが良かったと思う。

4, 調査の結果について(抜粋)

(生徒)白老駅前プロジェクト全体を通した課題・改善点

- もう少し調べる時間があればもっといい発表ができたなって思いました。
- 実際にこれ以上の観光客が来ることが発展につながるか、キャパオーバーではないかなど、自分の考えを疑う視点を持つという視点を発表後の質問でもらったかそれについても考える。
- やっぱり人口減少や白老で働く人が減少しているのが一番の課題だと思ったし、どのくらい人が増えればいいのかも考えたいと思った。

(教員)白老駅前プロジェクト全体を通した課題・改善点

- 初年度なので仕方の無いことだが、当初は教員間でだいぶ温度差があった。ただ、回数を重ねる毎に、生徒も教員も楽しそうな表情が見えた。
- 取材経費の使い道は、来年度以降、改善・事前指導の余地があると考えます。
- 場所を間違えて訪問できなかった所があった。**事前準備や有事の際の連絡の徹底が必要。**
- 訪問先が重ならないようにできたら良いと思う。
- 地域をもっと巻き込む必要がある。

4, 調査の結果について(抜粋)

(生徒)来年度以降取り組んでみたいこと

- 他の市に取材したい。
- 白老に近い地域に行き白老に何が足りていて、何が足りていないのかをみんなで考えてみたい。
- 発表をスライドやプレゼン方式だけではなく、劇やその他の発表の仕方があっていいんじゃないかと思った。
- ボランティアの回数を増やす、町民の声を町長に聞いてもらう。

共通項

(教員)来年度以降取り組んでみたいことやアイデア等

- 教科、学年の枠を越え、全員で取り組むんだという意識は昨年よりは向上したが、まだまだ足りない。存続がかかっている時期だからこそ、全員で「白東ならではの」を探究し、魅力を発信し続け、選ばれる学校を目指したい。
- 今年度の形で良いかと思います。
- 今年度の活動に加えて、地域の人材を個のゼミに招いたり、どこかの企業の社長を呼んで、全体講演を行うなど。起業の授業など。
- 白老在住の芸術家の方や、アイヌ文様の刺繍作家、木彫りの名人だとか、人にスポットを当ててみるのも面白いかと思った。馬を育成している牧場主さんや、白老牛を育てている方もいいかもしれません。
- 白老愛のある多くの人たちとどうやって関わらせることができるか。

来年度以降の重点項目

来年度以降の重点項目

5, 調査結果のまとめ(数値回答から①)

本校のグラデュエーションポリシーの到達度

「Q. 白老駅前プロジェクトにおいて、本校のグラデュエーションポリシーのうち、最も育成できたと思われる項目を1つ選んでください。」の質問において、教員、生徒ともに「**課題発見力**」が最頻値となった。**探究型の学びにおいては、「課題設定」が極めて重要であることから、**本授業序盤で行った「出前講義(白老町長、役場職員、地域コーディネーター)」は、生徒の内発的動機付けという観点から見ても、大変意義深いものであったと言える。特に、異なる三者の立場から、地域の強みと課題をご講話頂いたことで、大枠をつかむことができた。

「Q. 白老駅前プロジェクトにおいて、本校のグラデュエーションポリシーのうち、もう少し育てたかった力を1つ選んでください。」の質問において、教員の最頻値は「**自己教育力**」であった。この授業で学んだことを、今後の実生活において、どのように活用するかが重要であり、今後も育成したい資質・能力であると言える。生徒の最頻値はクラスによって異なるが、「**自己肯定力**」「**発信力**」であった。その地域で生活する自分たちの生き様を肯定的に捉え、その魅力、またその環境に愛着を持って内外に発信する力が今後も重要と考える。

5, 調査結果のまとめ(数値回答から②)

教員と生徒の回答で開き(若干の乖離)が見られた項目

「紹介冊子の取り組みについて(5段階評価)」

大半の項目で、生徒の回答が教員の回答の平均値を上回ったが、紹介冊子に関してはこのようになった。電子媒体に慣れている生徒は、紙媒体の資料を敬遠する傾向にあるが、**町民、役場職員を含め、地域方々には好評をいただいた。**

教職員	生徒
4.55	4.27 A:3.88 B:4.65

「ゼミ活動(少人数指導)の取り組みについて(5段階評価)」

生徒の方が大幅に上回った。今年度からの試みであったため、当初、教員は若干の戸惑いがあったように思うが、回数を重ねるにつれ、雰囲気も良くなっていった。また、生徒の記述回答からも、**少人数で深い学びが実現できた旨の意見が多数見られた。**

来年度以降も、**少人数指導の利点や効果を年度初めの会議や研修等で周知していく。**ただし、時間割調整、出張といった校務、また年休等**教職員個々の都合には対応していないことが挙げられ、早期に教務部時間割担当と相談し、連携を密にしていく。**

教職員	生徒
4	4.44 A:4.23 B:4.65

5, 調査結果のまとめ(記述回答から)

「良かった点」「来年度以降継続したい点」

- ア、少人数指導(教員の協働体制)
- イ、地域コーディネーターとの連携
- ウ、町長に直接解決策等を伝えられたこと

「課題点」「改善すべき点」

- ア、スライド作りが苦手な生徒への支援が少し足りなかった
- イ、教員の専門性をもう少し反映させても良かった
- ウ、時間配分について
- エ、商店街全体の大枠を探究したため、「人」に焦点を当てられなかった

6, 今年度の課題とゴール(目標)の達成状況について

探究課題【何を学ぶか】

白老の歴史、風土を活かした取り組み、地域活性に向けて取り組んでいる人々に焦点を当て、高校生として何ができるかを探究する。

- 白老の歴史、風土を活かした取り組み…フィールドワークにて概ね達成できたが、「歴史」に関しては**更なる探究の余地がある**。
- 人々に焦点を当て…「人」というよりは、商店街全体(大枠・横系)に焦点を当てた。**来年度以降は、人(細部・縦系)に焦点を当てて、進路(キャリア)探究につながる横断的な探究活動を目指す。**

今年度のゴール(目標)

白老東部(駅周辺)商店街の良さを知り、体験した上で、さらなる活性化に向けた課題を把握する。

- プロジェクト全体を通して、商店街の良さを肌で体感し、活性化の一助となり得る紹介冊子を作成し、本校ホームページで公開する他、フィールドワーク訪問先へ届け、**地学協働の相補的な関係構築を意識した**。よって、今年度の目標に関しては、**達成できたものとする**。

7, 地域コーディネーターより助言

- **課題設定については、教員側の介入の仕方が難しく、もう一步踏み込んだ設定（より具体的な課題設定）ができるとよりよいものになると感じた。**
- 少人数の実施で生徒とより密接にコミュニケーションがとれた。
（※地域コーディネーターもゼミ担当として参加）
- **全てのゼミで共通のゴール設定（最低到達ライン）があれば、さらに生徒同士の向上心が見られたのではと感じた。**
- **教員のネガティブな意見が少なかった。**
- 「生徒を中心とした考え」をもっと教員全体が持つ。
- **より地域（町・行政）を巻き込んでいく動きを作っていく必要がある。**
- 生徒への**ポジティブなフィードバック**をもっと増やしていく。
- 資金確保（クラウドファンディング）へ挑戦してみてはどうか。
- 政策甲子園コンテスト等へ応募してみてはどうか。

北海道白老東高等学校地域コーディネーター 佐藤雄大氏
（白老町議会議員）
令和3年7月（当時北海道教育委員会OPENプロジェクト研究指定校）より勤務

8, 次年度に向けた提言について

提言1 「町全体」から「人」へスポットを当てる

今年度は、「町(商店街)」にスポットを当て、まずは、高校入学段階において必要な「探究の基礎的なスキル」を身につけた。また。その過程において、町(地域)の良さを発見し、課題を解決すべく提言発表を行った。

次年度は、今年度の授業を素地とし、「人(町民)」に**スポットを当て**、よりミクロな視点で地学協働を意識した探究を実施したい。この探究において、様々な人と関わり、町の経済状況にも触れることができれば、**地域探究と同時に、職業理解にもつながり、キャリア探究の一部を担える**と考える。学年、地学協働推進委員会の枠を越え、進路指導部(2年次で行うインターンシップ)とも連携を図ることが重要であり、**授業時数(現実的な実施可能時数)については、教務部も含めた検討が必要。**

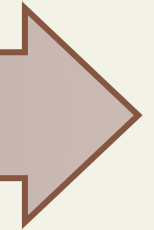
今年度の地域探究を「横系」として下支えし、次年度以降のキャリア探究を「縦系」とした「たたき台イメージ」

今年度

横系 町・商店街の探究、
魅力化向上の地域探究

次年度

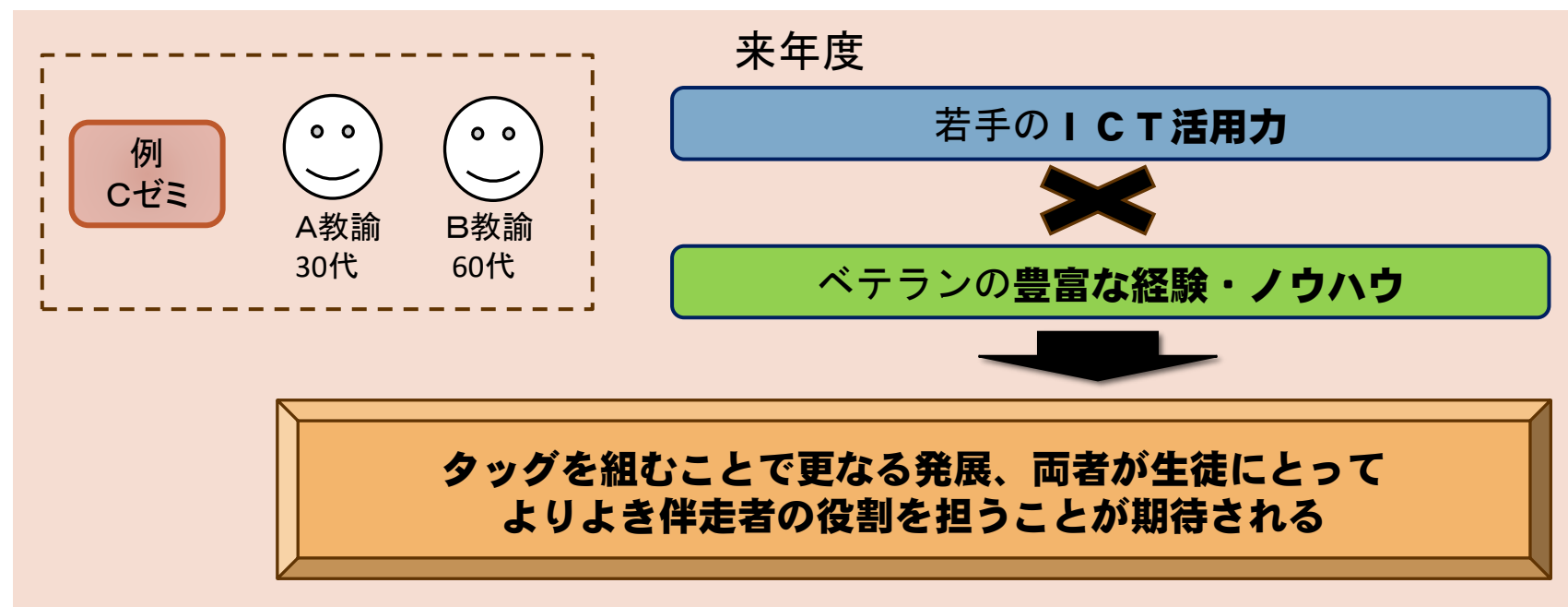
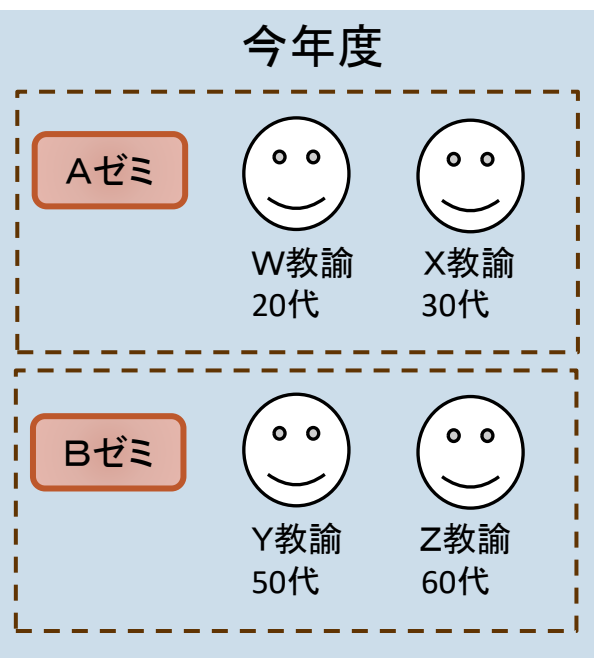
縦系 人・町民を通じた
地域・キャリア探究



8, 次年度に向けた提言について

提言2 ゼミ担当教員の配置の工夫で、より深い学びの実現へ

今年度は、試行年度ということもあり、機械的にゼミ担当を配置したが、**年齢層に偏りが見られたため**、次年度以降は、**若手とベテランの組み合わせ**や、くじ引きによるランダムな組み合わせで配置し、より深い学びを実現する。期待される効果としては、**若手の「ICT活用力」**、**ベテランの「豊富な経験」**を掛け合わせ、**ゼミによって担当教員の「強み（得意分野）」**が分散されるよう考慮する。



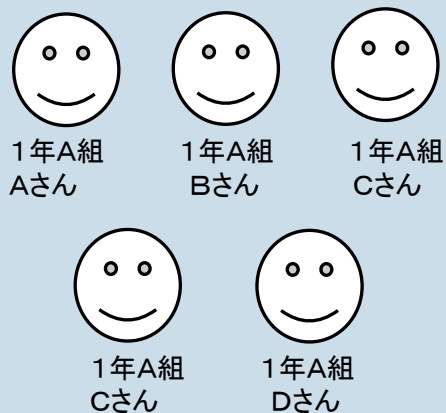
8, 次年度に向けた提言について

提言3 縦割り（異学年）ゼミ、校種を越えた協働的な学びの実現へ

今年度、1学年のみで行っていたゼミ活動の一部※を、縦割りゼミや校種を越えた授業を検討し、協働的な学びの実現を目指す。（※授業の全てで実施は困難と考え、一部のみ試行的な実施を検討したい。）

今年度

Aゼミ



ゼミの構成メンバーは全て
同一学年、同一クラス



来年度のイメージ

例 Cゼミ



例 Dゼミ



【留意点】中学校との連携体制、連絡調整係の配置（校内と校外）、双方の行事・授業の調整等、課題点を洗い出す必要あり。

縦割り（1学年と2学年）ゼミ、近隣中学校との連携によって協働的な学び、地学協働体制の強化

9, 白老駅前プロジェクト全体のまとめ

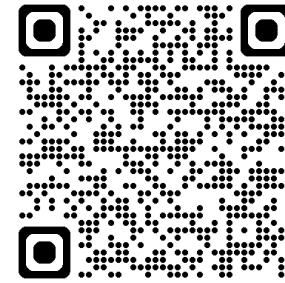
- 教員、生徒ともに「**課題発見力**」が育まれたという**共通認識**が見られた。
- 「自己教育力」「発信力」含め、**本校のグラデュエーションポリシーの全てを3年間かけて、何らかの形で育まれるような教育課程の在り方が重要**。ただし、**総合的な探究の時間**だけではなく、**教科横断的な視点が必要**。
- ゴールが見えないことであっても、まずは実践してみることが重要。来年度以降のブラッシュアップは、年度末の調査等を利用し、提言の形でまとめ、次年度以降に引き継ぐ。
- その授業方法等が適切か、持続可能であるかを教員間で情報共有し合うことで、新たな価値の創造や、見落としていた視点に気がつくことができる。
- 「情報連携」は勿論、「**行動連携**」が常にできる雰囲気、学校を目指す。
- 探究の過程の中で、地学協働体制（地域と学校の相補的な関係）の構築を常に意識する。

10, 参考資料

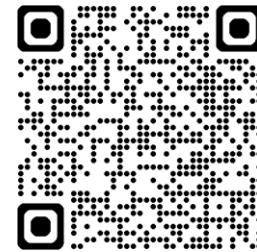
(1) 令和6年度 1学年総合的な探究の時間(地域探究分野・白老駅前プロジェクト)実施の手引



(2) 北海道白老東高等学校HP
<http://www.shiraoihigashi.hokkaido-c.ed.jp/>



(3) 白老町HP
<https://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/>





令和6年度
1学年総合的な探究の時間（白老駅前プロジェクト）

反省改善調査 報告書

本調査に関する問い合わせ
担 当 北海道白老東高等学校
教諭 柚原航太
石川拓未

電 話 0144-82-4280

FAX 0144-82-4766

メー ル ky1201@hokkaido-c.ed.jp